

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2770105860		
法人名	社会福祉法人 宝生会		
事業所名	あいする久世グループホーム		
所在地	大阪府堺市中区東八田387-1		
自己評価作成日	平成 25年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成 25年 12月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2770105860-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 10月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で快適な住まいを提供し、開放的で活気のある生活を送っていただけるよう努めています。職員主導ではなく、生活されている方のリズムに合わせ援助し、その方々にあった援助の方法を声掛けの仕方からそれぞれに合ったものを考えています。地域の行事などにも積極的に参加し、地域にその存在を広く知られています。食事にも力を入れ、冷凍食品などはほとんど使わず、季節の食材を取り入れ、作り立てを提供しています。また、入居されている方の色々な面での自立を目標とし、食事の際の姿勢の改善や、薬に頼らない排泄改善などにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者は地元出身で、管理者も地元で生まれ育っていることから、地域でネットワークがあります。ホームは、静かな住宅街にある別荘風の建物で、共有空間の大きな窓からは、庭園のような中庭や外の景色が見え、開放的で明るく広いスペースを保っており、また家庭的な温かみのある落ち着いた雰囲気の間になっています。職員は資格保持者が多く、職員間のチームワークもよく、美味しい食事と行き届いた介護サービスを提供し、医療面でも十分な配慮があります。利用者は、笑顔と会話があり、ゆったりと安心して過ごすことができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「日々楽しく自分らしくふれあいを大切に心安らぐ場所に」を理念とし、見える所へ貼り出し、職員の周知に努めている。	「日々楽しく自分らしくふれあいを大切に心安らぐ場所に」を理念とし、ユニット毎にも職員が話し合って実施目標を定めて明示しています。職員は全体会議やリーダー会議、ユニット会議、毎日の業務などを通じて方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の盆踊りやだんじり祭りなど、行事への参加を行う。又、ご近所の方へのあいさつやスーパーへの買い物など地域の生活の場へ出る機会を持つようにしている。その際、ご近所の方へのあいさつも行うように心掛けている。	ホーム周辺の散歩や、スーパーへ買い物等、近隣の方々と接する機会時には挨拶を通じて、日常的に交流しています。また、盆踊りやだんじり祭りの古くから慣れ親しんだ地域行事への参加は、地域の若者がホームに興味を示すきっかけとなりました。月に2回、「新舞踊」のボランティア訪問があり、利用者は楽しい一時を過ごしています。隣家から収穫した柿が届き、ホームで干し柿にしました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催や日々の日常生活の流れの中での地域の方との挨拶や交流を通じて活かせるように努める。電話や見学等の際に不安や疑問があれば知り得た範囲でお話するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や民生委員と話し、災害時の対応などを協議している。また、グループホーム内で起こった転倒等の事故・ヒヤリハットなどについても報告し、意見を聞いている。会議録の回覧はしていないが、閲覧できるようにしている。	運営推進会議は、開催規程を作成し、2か月に1回開催しています。自治会会長・民生委員・知見者・地域包括支援センター職員が参加しています。ホームは、運営状況や事故事例等について丁寧に報告し、参加者からの質問や意見等を聞き話し合っ、今後のサービス向上に活かしています。	今後は、利用者家族に運営推進会議の議事録の配布や、会議への参加を促す等、検討してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員に来てもらい、ホームの状況を伝えている。また、困っていることがあれば、会議以外にも連絡をし、相談に応じてもらっている。	市の担当者の定期的な訪問時には、ホームの状況報告を行っています。過去に地域包括支援センターへ研修の開催を依頼し、実施した事例もあります。また、運営推進会議を通じて、地域包括支援センター職員にホームの状況を積極的に伝え、協力関係を築いています。ホームは、事業者連絡会にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居者がしたいと思うことができない状況が拘束にあたる。という事を前提とし、その考えにできるだけ近づけるよう努力している。中庭には出入り自由にしており、玄関も施錠はしていない。ただ、自動ドアを開けるボタンが手の届きにくいところにある。</p>	<p>前回の評価で課題となった玄関のセンサーチャイムを外し、自動ドアの近くに開閉するリモコンを設置するなど、利用者が自由に出入りできるよう努めています。また、身体拘束をテーマにした内部研修を実施し、家族が了解しているベッド柵についても外すよう努めています。言葉による抑制は、職員間で相互に確認しあうことが日常化し、効果ある取り組みとなっています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待や不適切な介護に至る可能性が高いと考えられる時には頻りにカンファレンスをし、職員の行き詰まりや抱え込みが無いようにしている。定期的に虐待についてのリーフレットなどを配り、意識してもらうようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は成年後見制度について理解し、必要に応じてご家族と相談している。実際に後見人がついての方が複数入居されており、後見人と後見制度について話しをすることもある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、より細かな説明を心がけ、管理者が行っている。納得できずに入居することがないように、時間をかけて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置き、意見があれば入れてもらうようにしている。また、利用者やご家族が言いやすい環境を作るようにし、気軽に意見できるようにしている。もちろん出していただいた意見については反映している。	管理者は、家族の訪問時には積極的に声かけをしています。ユニットリーダーは毎月、各家族にホームや利用者の様子を知らせる手紙を送付資料に添えて、意見や要望を誘導しています。家族の要望により、ホーム内で利用者と共にロールケーキを作り、他の利用者も参加して一緒に食べる等、喜びや楽しさを共有した事例があります。盆踊りの際に家族会を開催し、多数の家族が参加し、話しやすい環境づくりをしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や計画作成担当者が外部研修などを受けた際には、全体会議や書面を用い、職員に伝達している。意見や提案があれば、その都度管理者に話をする事ができる。また、ユニットの会議で出た提案をリーダー会議の場で発表することもできる。	利用者の受け入れや人事異動については、現場職員の意見を聞きながら進めています。介護機器の購入も現場の声から管理者が購入を決断しています。日ごろから管理者は話しやすい存在で日常的に意見交換をしています。現在、職員から各種委員会の立ち上げが提案され、管理者も賛同しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は来所された際にはスタッフと顔を合わせ、声をかけている。常勤で働く介護職員を全員正社員として雇用し直した事で職員各々が責任を持って働けるよう環境を整えていただけた。資格取得時にも協力的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は参加できない状態が続いたが、現在は外部研修などにも参加できる環境となっている。だが、職員が外部研修に参加する機会は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が参加している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、入居時にはできるだけ同人物が立ち会えるようにし、知った顔があることで不安を取り除けるように配慮する。面接時には特にゆっくりと時間を取り把握に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの時点からゆっくりと話を伺い、信頼関係を築くように努力している。面接面会時には不安なことや希望する事等をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された初期段階でまず必要なサービスをユニット職員で検討し(アセスメント)それに基づいて援助していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、個々ができる事は不完全であってもお手伝いしていただくように働きかけを行っている。出来ない部分を援助するような体制をとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を毎月ご家族へ伝えたり、都度何かあればご家族へ相談や報告をするようにしている。なお、報告は問題点ばかりにならないよう気を付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に規制は設けていない。 家人様や知人の方が来所された場合は自室でゆっくりと困らんとして頂けるよう心掛け、仲介が必要な場合には職員が対応する。地域の盆踊りなどは家族様と一緒に参加する機会を設けている	職員は、利用者の入居前までの生活歴や交友歴等を尊重し、友人の訪問や電話・手紙での連絡を手伝う等、関係が途切れないように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活するうえでトラブルが起こらないように配慮をしている。又、孤立を防ぐために職員が介入し輪を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後の相談などはほとんどないが、有れば対応したいと思う。また、偶然施設外で出会うことがあるが、その場合は個人情報に配慮しながら、その後の状況などをお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で個々のニーズの把握に努めている。また、会議の場等で職員個々で持つ情報を共有し、検討するようにしている。	入居時には書式に沿って基本的な思いや意向の聞き取りを行っています。しかし、入居後の思いや意向の把握については、多数記録物があり、職員間の周知に差が生じているような状況です。具体的に利用者一人ひとりの思いや意向に合った個別のサービスを実施していますが記録に残っていない状況です。	利用者一人ひとりの意向の把握については、今後簡潔に読み取ることができ、職員間で日々対応に合致しているかどうか容易に確認ができるよう、記録を工夫することが期待されます。また、入居後に得た思いや意向についても、今後は更に書き加え、職員間で情報が共有できるよう努めてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後に本人やご家族から話を聞き、フェースシートを作成し、会議等で職員間で情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活を踏まえ、趣味や興味を示すもの、今までの日常生活で行ってきたことを観察し把握する。また、職員間でも気づく部分があるので、情報交換を行い、皆が共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のみならずご家族にも意見を伺いながら本人にとって良い援助の在り方を話し合い、検討し、サービスに反映できるように計画を作成している。	介護に必要な書類は整い、介護計画は多くの課題を盛り込み詳細に記載しています。また、モニタリングなども実施しています。しかし、介護計画・介護記録・モニタリングについては、援助内容項目が多数あり、職員が実施する毎日のモニタリングについては、工夫の余地がある状況です。	今後は、介護計画の援助項目を絞り込み、個人別の介護記録日報用紙にも援助項目を追加するなどして、職員が効果的にモニタリングを行えるよう検討してはいかがでしょうか。また、介護の一連の流れをわかりやすく書面で示して話し合い、家族にも報告してはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアに関してはチェック項目を基に日々の特記事項を記録することで情報の共有を行っている。必要に応じてカンファレンスを行い、実践・経過観察・検討を繰り返し行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なサービスが出てくれば、その都度可能な範囲で対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人らしく生活できるように心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診により医師の診察を受けているが、本人や家族が希望する病院があれば受診できる体制はある。また、ホームドクターは24時間連絡連携が取れるようになっており、緊急時にも対応できるようになっている。	利用者は、医療連携しているクリニック医師の定期的な健康診断と週1回の往診を受け、看護師による週3回の看護も受けています。医師とは24時間の連絡ができ、緊急時の対応についても体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師来所時に必要な情報を伝達・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は様子を伺いに行くようにし、聞ける範囲で病院看護師に状況を尋ねるようにしている。 病院関係者との関係作りは管理者が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化された場合への対応に係る指針」を契約時に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合も家族の意向を聞き、検討をし、極力グループホームでの生活を継続できるように支援している。</p>	<p>ホームは「重度化された場合への対応に係る指針」を定め、看取りを実施する方針がないことを家族に説明し、同意を得ています。今後、利用者が重度化した場合は、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医と連携を図っていきます。また、状況の変化に合わせて、利用者や医師、看護師、家族と話し合いをしながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な訓練は行っていないが、マニュアルを作成し、職員に説明している。また、急変の可能性の高い入居者については、会議等で対応の方法等を説明し理解の確認を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災時の避難訓練は昼夜を想定して行っている。訓練は地域の方の参加はないが、運営推進会議等で災害時の援助等呼びかけている。</p>	<p>災害時の避難訓練については、夜間想定を含め、地域住民の協力も仰ぎながら、毎年2回実施しています。今年2回目の避難訓練については、前回の外部評価結果を受けて、消防署の立会いのもと、近々実施する予定です。非常・災害時の食料品と水については、備蓄しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時・場所・人の状況に合わせ話をするように心掛けている。人格の尊重を基本とし、親しみのある対応を心がけている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。人権や接遇については業務を通じて研鑽していますが、今後実施する予定の全体会議の研修のなかでも取り組み、職員の意識向上に努めていく予定です。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活・コミュニケーションの中で自由に発言できやすいような関係作りを行っている。また、個々に合わせて話をするように心掛け自己決定しやすい様に工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臨機応変に対応できるように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色等を聞いたり、その日に着たい服を選んでもらったりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は厨房職員にて調理している。調理準備に関しては個々ができる事をできる範囲で一緒におこなってもらうようにしている。	食材業者から取り寄せた材料を使い、ホームで調理しています。利用者は食事準備、盛り付け、後片付けなど、得意な分野で参加しています。職員は、利用者と同じものを一緒に食べながら食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートを行い、楽しい会話と和やかな雰囲気作りをしています。定期的に利用者の好みに合わせた特別メニューにも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付けの量を人によって変えている。水分補給は適時対応している。お茶やコーヒーなど気分転換になるように色々と変化を付けている。また摂取量が少ない方にはチェック表を作ったりゼリー等での保水を促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは洗口剤を使用し口腔ケアを行っている。 義歯使用の方は隔日で義歯洗浄剤にて消毒を行っている。週1回は歯科医師の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知り、促していくようにしている。必要な方にはポータブルトイレを使用し、対応している。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握していません。重度の認知症利用者が多い中で、ほとんどの利用者が、声かけや誘導を確実に行うことで、トイレでの排泄ができ、7割近い利用者が布パンツで過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に乳酸菌飲料を取り入れる等行っているが他の食事にはあまり工夫していない。水分補給をしっかりとし、毎朝の歩行運動に参加してもらうよう促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴対応の時間はある程度決まっており、その中で臨機応変に対応している。ご本人たちの希望で入居者同士一緒に入浴する場合もある。希望があれば毎日の入浴も可。発汗が多い場合や便失禁の場合等必要な時には入浴している。	利用者は、平均して週3回の入浴を楽しみ、希望すれば毎日の入浴もできます。ゆず湯などの季節の行事風呂も楽しんでいます。風呂を好まない利用者にも、声かけの仕方やタイミングの工夫により入浴を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・体力等に応じて日中の臥床を行ってもらっている。夜間眠れない場合、談話をするなど気持ちが落ち着くように個々に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は管理投薬を行っている。 新しく処方される薬は医師・薬剤師に確認するようにしている。 経過は観察し、報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般に於いてお手伝いをできる範囲で、できる事を行って頂くように声掛けしている。季節ごとにユニット内で行事を企画したり買い物外出等を行っている。散歩でご本人の希望の場所へ行くこともある（近隣）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ散歩に出かけている。 なかなか行きたい場所の希望はないが、会話の中で食べたいものなどがあれば外食したり買い物に行くなどの対応を行っている。墓参りなどは家族様に可能な範囲で対応してもらっている。	利用者一人ひとりの希望や職員の声かけにて、ホーム周辺の公園や地蔵、稲荷神社等への散歩や、近くのスーパー、駅前のお店への買い物等、日常的に外出支援を行っています。また遠出する企画では、昨年大阪城へ行きました。今年も利用者の要望を聞きとり、みさき公園への遠出を企画しており、外出する予定をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣いは預かっている。少額の現金を保持している方もおり、買い物の際に出していただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば対応している。年賀状や暑中見舞いを出すようにしている。（代筆することが多い）		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるような壁画を皆で作成し、掲示するようにしている。また、整理、清潔を保つように努力している	ホームは、静かな住宅街にあり、別荘風の建物になっています。明るく広いリビングの大きな窓からは、庭園風の中庭や外の景色が見え開放的な雰囲気です。リビングには各ユニットそれぞれに個性的な飾り付けがあり、季節毎に風物の押し絵や行事写真、手作り作品が飾られています。ソファや畳部屋などの居場所も確保され、家庭的な温かみのある落ち着いた雰囲気の空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自身の食席が一番落ち着く様子。テレビ前のソファや廊下の一人がけの椅子、中庭への出入りも自由に行えるようにし、職員は危険の無いように見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物があれば持参していただくようお願いしている。歌人の写真や本人の写真、作品など飾るようにしている。	居室には、利用者が好きな動物の写真を多数貼ったり、家具やソファ、仏壇、家族の写真、ぬいぐるみ、手作り作品、時計、テレビ等、使い慣れた物やお気に入りの物を持ち込んだりする等、居心地よく過ごしやすい雰囲気になっています。また、自身が持ち込んだ机で読書や書き物をしたり、家族と電話で会話を楽しみ、壁にはテレビの天気予報を毎日記録した「1ヶ月天気表」を貼る等、個性的な居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	中庭へ物干しを用意し(腰下)自由に干せるようにしている。トイレもわかりやすい様に貼り紙をしたり、タンスを整理し見出しを付ける等行っている。		